

医療法人光耀会 菊地眼科クリニック



CLINIC DATA

業種 医療業
 事業内容 医業、白内障・硝子体・緑内障等各種手術、IPL治療
 創業 2014年1月
 代表者 理事長 菊地 琢也
 所在地 川崎市幸区下平間 152-3
 従業員数 14名

ホームページはこちら



クリニック紹介

大学病院、地域の中核病院での臨床経験を生かして患者さんの力になれるような眼科クリニックを目指して開院。眼科に特化したスタッフ（看護師、視能訓練士）が常勤し、丁寧に対応。また、診療や会計の待ち時間を短縮するため、電子カルテを導入している。大病院に匹敵する多種多様な検査機器を用意し、クリーンルームでの白内障、眼瞼や涙道の病気を中心に日帰り手術も行っている。



▲従来、訪問診療の際は、カルテ等の紙ファイルを持参し、そこから過去の履歴を探していた。



▲本システムの導入で、現場で患者さんの情報把握が簡単にできるようになった。



▲モバイルプリンターから処方箋と領収書の発行ができるようになった。



院内電子カルテ遠隔操作システムを導入 訪問診療作業の大幅削減、業務効率化を実現



- ① 過去の診療録及び検査結果の確認作業の簡素化・効率化
- ② 診療内容、処方箋、検査データ入力など往診作業、請求書作成準備作業の軽減

1 経営課題

Task

高齢化が進む中、通院が難しい高齢者は増加傾向にあり開院当初から自宅・施設への訪問診療を行ってきました。電子カルテは院外に持ち出すことができないため、訪問時に処方箋などカルテ情報を全て印刷し、訪問先で診療内容、処方箋、検査データを手書きし、院内に戻ってきてからPCへ入力する作業、ファイリングされた膨大な情報から過去の往診記録を探す作業に多くの時間を割かれていました。需要増に対応して毎日往診できる体制を整えていく上でも作業の効率化が求められていました。

2 取組概要

Approach

院内の電子カルテを搭載したパソコンにリモートでアクセスできる遠隔操作システムを導入し、訪問時はポケット Wi-Fi、ノートパソコンとモバイルプリンターを持参。訪問先から遠隔で院内 PC を操作・作業し、過去の診療内容の確認や薬の処方、診療内容の入力を行い、モバイルプリンターから処方箋と領収書を発行することが可能となりました。診察室と同じ内容の情報を共有でき、往診歴、病歴、投薬歴等を全て出先で閲覧できる点は大きなメリットです。

3 実施効果

Effect

従来、膨大な紙ファイルを持参し、分からない点があれば電話で問い合わせしていました。診療情報が多い患者の場合、紙情報だと細かい見落としのリスクもありますが、デジタルデータであれば検索も容易であり、現場で間違いのない判断を下すことができました。また、従来訪問の準備に要していた時間の圧縮や、往診時の領収書の発行及び診療費の徴収ができるなど事務作業の効率化が進み、本来業務である検査・診断に注力できるようになりました。また、リモートでカルテにアクセスできるため突然の診療依頼にも対応できるようになりました。

成果 1

ペーパーレスによる準備作業の短縮効果
 導入前月間約 100 枚の印刷が 0 枚に
 導入前月間 360 分→ 120 分 1/3 に

成果 2

診療、処方箋、検査データ入力の効率化
 導入前月間 240 分→ 60 分 1/4 に

成果 3

施設での訪問診療時の診療依頼への対応
 診療録の確認ができるため
突然の診療依頼にも対応可能

成功要因

- 紙ベースで運用されていたものをデジタル化する試みでありスムーズに進めることができた点
- トラブルシューティングを運用面で解決する方法についてチーム間で共有ができた点

経営者
INTERVIEW

今後ますますニーズが高まる訪問診療の拡大へ対応

高齢化が進む中、通院が難しい高齢者は増加傾向、通院を介添える家族の負担も増えています。また、高齢者関係の施設から通院してもらうにも施設の職員による送迎が必要となり難しいのが実情です。そのため、当院では開業したときから訪問診療をミッションとして掲げており、その効率化という意味では良いタイミングでした。在宅や施設入居の患者さんにも、病院やクリニックと同じレベルの診療を提供することをモットーとしており、場所を問わずしっかりとした検査をしていくことが欠かせません。眼科による訪問診療は未だ認知度が低いのが実情です。取組を通じて得たノウハウ・知見を学会等の機会でも積極的に発信していくことで、訪問診療を行うクリニックを増やし、システムの成熟を促していきたいと考えております。

理事長 菊地 琢也

社員の声

- Wi-Fiの不調などで通信回線が途切れた場合、再度ログインをしないといけない場合も。通信環境が悪い場合、時間のロスを防ぐため施設では患者さんに1箇所に集まってもらうなど、技術的課題をオペレーションの工夫で解決しました。
- 訪問先への移動中の車中でリモート接続するなど、時短化をさらに進め、移動中に事前のカンファレンスもできるようになりました。
- 従来、昼の休憩時間に訪問診療の準備をしていましたが、準備が簡単になったので昼休憩を定時に取れるようになりました。
- 時間の余裕ができたため、午前中の外来患者のフォローもより手厚くできるようになり、患者さんの満足度の向上を実感できます。

今後の展開

●今回の取組を通じて得たノウハウ・知見を生かし、今後ますますニーズが高まる訪問診療の効率化を進めることで、訪問診療を行うクリニックを増やし、業界一丸となりシステムの成熟化を狙います。予約システムもネット予約が当たり前ですが、セキュリティの問題から電子カルテシステムと予約システムの連動ができず、予約のオンライン化ができていないため改善が必要です。